

## 第2学年 英語科学習指導案

日時 平成16年11月26日(金) 5校時  
生徒 2年A組(男子 8名、女子 21名、計 29名)  
指導者 教諭 武田 由香

### 1 単元名・教材名 “Unit 6 Christmas Is Coming” (New Horizon Book 2)

### 2 単元の指導目標

#### Starting Out/Dialog

内容： クリスマスの飾り付けがされている部屋の様子を読み、クリスマスがキリストの誕生日であること、南半球では日本人が一般的に抱くイメージとは違った趣のクリスマスになることがわかる。

文型： “there is/are ---.”を用いた文の肯定文・疑問文・応答文の意味・用法を理解し、話すことができる。

#### Reading for Communication

内容： オーストリアのオルガン奏者の話を読み、その内容を日本語で説明することができる。

文型： 動名詞を目的語及び主語とする文の意味・用法を理解し、表現できる。

#### Listening Plus 6

内容： ジョン・レノンの *Happy Christmas* を聴き、空欄の単語を記入し、歌詞を完成させることができる。

#### Writing Plus 3

内容： 英語のメッセージを記入し、グリーティングカードを作ることができる。

#### Multi Plus 4

内容： 今と昔の街の絵を比べて、“there was/were --”を用いてその違いを話すことができる。また、文章構成の例に従って、自分の街を紹介する英文を書くことができる。

### 3 単元について

#### (1) 教材について

##### 題材について

この単元では、クリスマスについての話題を取り上げている。具体的には、クリスマス前の居間の様子からプレゼントやカードを送る習慣、クリスマスの由来と日本と季節を逆にする南半球でのクリスマスの様子、伝統的なクリスマスソング「きよしこの夜」の誕生にまつわる話を扱う。日本とは異なる宗教を背景としており、本来の宗教的儀式として家庭で祝われる様子、教会へ足を運んで祈りをささげる習慣など、文化的な違いを学ぶために適した題材である。

##### 言語材料について

“there is/are ---.”の構文を扱う。形式的主語の“there”を用いるこの文は、人や物の存在、位置を表すために用いられることの多い表現である。

また、動名詞を扱う。“enjoy, finish, stop ~ing”の動名詞を目的語とする文及び動名詞を主語とする文を扱う。この用法も使用頻度が高く、表現の幅を広げる上でも有用性が高い表現である。

#### (2) 生徒の実態

今年の4月に行ったNRT教研式学力検査では、5の段階の生徒が0人、4が3人(10%)

3 が 12 人 (41%)、2 が 13 人 (45%)、1 が 1 人 (3%) であった。領域別に対全国比をみると、全国 100 に対して、「聞くこと」が 95、「読むこと」88、「書くこと」83、「話すこと」82 であった。本単元のレディネスに関する項目では、「聞くこと」のうち be 動詞の通過率は 55% (全国 75%)、「書くこと」の be 動詞の問題は 31% (全国 47%) であった。「聞くこと」のうち場所を表す前置詞“on”は 93% (全国 89%)、“under”は 66% (全国 78%)、“in”は 62% (全国 78%) であった。全国平均を上回っているのは、“on”だけであった。

文字に対する苦手意識が強く、家庭学習の習慣が十分身に付いていないため、「書くこと」については、基本的な単語の段階でつまづく生徒が少なくない。英語を話す場面では、自分の話す英語に自信をもてない生徒が多いことから、教え合う活動を取り入れている。

文字や言語の機能に対する意識が低いので、be 動詞の使い分けや前置詞の機能、語尾の-ing という形や、語順といった基本的な事項の復習をする良い機会と考える。

### (3) 指導の構想

#### 題材について

クリスマスの表面的な華やかさだけでなく、クリスマスのために家族や友人を思って準備する日々があることや、教会へ行き、祈りを捧げる人々の宗教に対する敬虔な心情、態度にふれることにより、大人に成長しつつあるこの時期の生徒たちに、宗教の存在について考えさせ、世界には、多様な暮らし方や考え方があることに気付かせたい。

#### 言語材料について

##### ア “there is/are ---.” の構文

教科書では平叙文と疑問文・応答文をそれぞれ 1 時間ずつ、計 2 時間扱いとしているが、文法的に難しい内容ではないので、まとめて第 1 時で扱う。既習事項である名詞の単数、複数に合う be 動詞を想起させ、展開部に入りたい。また、前置詞が用いられる場合の語順にも気を配らせたい。

##### イ 動名詞

1 年生の現在進行形の学習で、一般動詞の語尾に“~ing”をつけることを学んでいる。本単元では文中に動名詞を用いる際は、「- すること」の意味になる名詞用法を扱う。生徒は 2 年生のユニット 2 で to 不定詞を学習しているが、一般動詞の語尾に“~ing”を付加することで動名詞として文中に用いることが可能になることを指導し、口頭練習やワークブック等を用い、動詞の態の定着を図りたい。

#### 「書くこと」の指導について

大東町教育研究所の英語専門部会では、学力向上を図るために年度単位で研究を続けてきた。町内の 4 中学校は、他の 3 技能に比べて「書くこと」の領域が低い傾向が続いていることから、当部会ではこの実態を改善するために、書く力を高める指導の在り方について、研究を続けてきた。

この課題を改善するために、今年度は 1 単位授業時間の導入段階において、主に既習の基本文を用いた複数の文のディクテーション及び生徒相互のインタビュー活動を行わせる試みを行ってきた。本時でも実践する。

## 4 単元の指導計画

### Unit 6 (9 時間)

- ・“there is/are ---.” の肯定文・疑問文・応答文 (1 時間)・・・本時
- ・Starting Out + Dialog (1 時間)
- ・Reading for communication (2 時間)
- ・まとめ (1 時間)
- ・Your Turn + Listening Plus 6 (1 時間)
- ・Writing Plus 3 (1 時間)
- ・Multi Plus 4 (1 時間)
- ・単元テスト (1 時間)

5 本時の指導

(1) 目標 “there is/are ---.” の肯定文・疑問文・応答文の意味・用法を理解し、話すことができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点	評価と指導・支援
導 入 15 分	1 挨拶	・張りのある声で行う。	・学習への心構えを確認する。	
	2 Warm up	・ビンゴ・ゲームを用いて、英語を聞き、話す。 ・ディクテーションを行う。	・日本語を使わないよう指示する。 ・加点的評価を行う。	・つまづいている生徒を支援する。 ・努力、進歩を讃える。
	3 既習事項の想起、確認	・単数・複数名詞に整合する be 動詞と場所を表す前置詞のレディネスを揃える。	・単語から句まで易から難へと段階を追って確認する。	・生徒同士が教え合う。
展 開	4 課題の確認  新しい用法の文を聞かせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分の理想の部屋を作ろう</div> ・教師が話す英語を聞き、4つの絵の中から正しいものを選ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">There is a desk by the window. There is a cat on the bed.</div>	・物の配置を表す文を学ぶことを把握させる。 ・挙手により、答えを確認する。	
	5 課題の理解と追求 新用法の説明  新しい用法の確認	・絵を表す英文を構成する語句と位置を確認する。 “There is a desk by the window.”の文について、辞書を用い“there is”の日本語の意味を確認する。  ・主語に応じた be 動詞の区別を確認する。 ・疑問文・応答文の作り方を理解する。 “・Is there a desk by the window? Yes, there is. / No, there isn't. ・Are there two desks in your room? Yes, there are./No, there aren't. ・ワークシートの問題に答える。	・部分から全体を理解させる。 ・there が形式主語になる特殊な文であることを確認させる。 ・数詞や不定限定詞に気をつけさせる。 ・短縮形 There's も扱う。  ・机間巡視を行い、下位の生徒を指導する。	A・主語に対応した be 動詞を選択することができる。 ・”there is/are -.”の文を意味の上から2つに分けることができる。 ・”there is/are -.”

30分	<p>新しい用法の練習 新しい用法の応用 (言語活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出文型の導入時に用いたプリントの絵を利用し、口頭練習をする。</li> <li>・教室内にあるものについて「どこに何がある」という文を1つ作って発表する。</li> </ul> <p>Ex. There is an organ by the window.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シート上の部屋にいくつか物を置いて理想の部屋を作り、その絵について対話する。</li> </ul> <p>Is/Are there ---を使って相手の計画を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手と同じ物を同じ場所に置いた例を発表する。</li> </ul>	<p>隣の人と同じ物を同じ場所においているか確認する。</p> <p>つまずいた時は相手に教えるよう促す。また、2人とも分からない時は挙手をして教師を呼ぶよう指示する。</p>	<p>の文を日本語に直すことができる。</p> <p>B・主語に対応したbe動詞を選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・"there is/are -."</li> </ul> <p>の文を意味の上から2つに分けることができる。</p> <p>C 板書に注目させ、正答をワークシートに記入させる。</p> <p>A "Is there --?"を使って部屋の中にある物の位置を尋ね、答えることができる。</p> <p>B "there"の文を使って部屋の中にある物の位置について応答できる。</p> <p>C 生徒同士の教え合い、及び教師の個別指導をする。</p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>6 本時のまとめ</p> <p>7 次時の予告</p> <p>8 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動で用いた文の中から1つノートに書く。</li> <li>・教科書でクリスマスについて学ぶことを知る。予習する内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視をして、必要に応じて記述させる。</li> <li>・生徒の努力を讃える。</li> </ul>	

(3) 本時の評価規準

評価規準	具体的評価規準		支援
	A	B	
1 “there is/are ---.”を用いた文の意味・用法を理解することができる。(言語についての理解)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語に対応した be 動詞を選択することができる。</li> <li>“there is/are -.”の文を意味の上から2つに分けることができる。</li> <li>“there is/are -.”の文を日本語に直すことができる。</li> </ul> (ワークシートの問題1～4に正しく答えることができる。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語に対応した be 動詞を選択することができる。</li> <li>“there is/are -.”の文を意味の上から2つに分けることができる。</li> </ul> (ワークシートの問題1～3に正しく答えることができる。)	板書に注目させ、正答をワークシートに記入させる。
2 “there is/are ---.”を使って「どこに何があるか」を話すことができる。(表現: 話すこと)	“Is there --?”を使って部屋の中にある物の位置を尋ね、答えることができる。	“there”の文を使って部屋の中にある物の位置について応答できる。	生徒同士の教え合い、及び教師の個別指導をする。

6 板書計画

理想の部屋を作ろう

there is / are --- ---がある、いる  
 (そこに) 1つ / 2以上

1つ      **There is a desk** / by the window. 窓のそばに机がある。

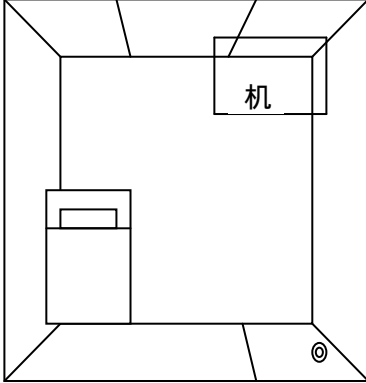
**Is there a desk** by the window?      ありますか?  
 ひとつの

Yes, **there is**. / No, **there is not**.      はい、あります。  
 = isn't いいえ、ありません。

2以上      **There are two desks** / in the room. 2つ机がある。

**Are there**      ?

Yes, **there are**. / No, **there are not**.  
 = aren't



there is = there's

学習シート (U.6 S.O+Dialog)

1 英語は日本語にきなさい。日本語は英語を選んできなさい。

- 1 ひとつの ( )      2 二つの ( )      3 -の上に ( )

two, a, by, on

2 正しいものを選びなさい。

- 1 There ( is am are ) a dog.  
2 There ( is am are ) two dogs.

3 文を1か所で区切きなさい。

There is a cat in the box.

4 上の(3の)文を日本語に直きなさい。  
r

7 単元の指導と評価計画: New Horizon Book 2 Unit 6

時間	目標	学習活動		評価規準			
				コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1 (本時)	"there is/are -- ." を用いた文の肯定文・疑問文・応答文の意味・用法を理解し、話すことができる。	不特定の「人や物がどこにある(いる)」と表現する時に "there is/are-- ." を用いること及びその肯定文、疑問文、応答文について学ぶ。			"there is/are -- ." を使って部屋の中の物がどこにあるか表現することができる。(話すこと)<観察、授業中>		"there is/are -- ." を用いた文の意味・用法を理解している。(言語についての理解)<観察・ワークシート、授業中><テスト、単元・定期>
2	クリスマスの飾り付けがされている部屋の様子を読み、クリスマスがキリストの誕生日であること、南半球では日本人が一般的に抱くイメージとは違った趣きのクリスマスになることがわかる。	クリスマス前の部屋の様子、カードの絵について読み取る。				・クリスマス前の居間に、プレゼントがツリーの下に用意されていること、送られたカードが飾られている様子を読み取ることができる。(読むこと)<観察、授業中> ・カードの絵にキリストが描かれていること、サンタ・クロースがサーフィンをしていることを読み取ることができる。(読むこと)<観察、授業中>	・クリスマスの由来について理解している。(文化についての理解)<テスト、単元> ・南半球でのクリスマスが夏であることを理解している。(文化についての知識)<テスト、単元>
3	・動名詞を目的とする文の意味・用法を理解し、英文を作ることができる。 ・オーストリアのオルガン奏者の話を読み、その内容を日本語で説明することができる。	動名詞の形・意味・用法を知り、それを目的として用いる動詞を学ぶ。	「きよしこの夜」の誕生の経緯と教会の様子・役割について知る。			・教会でクリスマス前にパイプオルガンが壊れ、対処した内容を読み取ることができる。(読むこと)<観察、授業中> ・作詞、作曲の役割分担を正確に読み取ることができる。(読むこと)<テスト、単元・定期>	動名詞の意味が言え、動名詞を目的とする文を作ることができる。(言語についての理解)<ノートへの記入、授業中><テスト、単元・定期>
4	動名詞を主語とする文の意味・用法を理解し、それを用いて友人の考えを尋ねることができる。	動名詞を主語として用いることを学ぶ。	動名詞を主語として用いることを学ぶ。	動名詞を主語とする文を使って、友達の考えをすすんで聞いたり、それに答えたりしようとする。(態度)<観察、授業中>	動名詞を主語とする英文を使って友達の好きなことや難しいことなどを尋ねることができる。(話すこと)<観察、授業中>		人々がパイプオルガンを使わないことに驚いたことを理解している。(文化についての理解)<テスト、単元・定期>

5	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書本文の内容が伝わるように音読することができる。</li> <li>"there is/are --", 動名詞を含んだ英文を作ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめとしてオーストリアの教会の話を音読する。</li> <li>ワークブックの問題を解く。</li> </ul>			<p>本文を登場人物の気持ちが表示されるように音読することができる。(読むこと)&lt;観察、授業中&gt;</p>	<p>"there is/are -- ." を用いた文、動名詞を用いた文についてワークブックの問題に答えることができる。(言語についての理解)&lt;ワークブック、授業中&gt;</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジョン・レノンの <i>Happy Christmas</i> を聴き、空欄の単語を記入し、歌詞を完成させることができる。</li> </ul>	<p><i>Happy Christmas</i> の歌を聴き、歌う。</p>			<p><i>Happy Christmas</i> の歌の空欄部分を聞き取ることができる。(聞くこと)&lt;教科書への記入、授業中&gt;</p>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語のメッセージを記入し、グリーティングカードを作ることができる。</li> </ul>	<p>グリーティングカードを作る。</p>	<p>グリーティングカードに英語でメッセージや気持ちを書いて伝えようとする。(意欲)&lt;カード、授業中&gt;</p>	<p>グリーティングカードに英語でメッセージを書くことができる。(書くこと)&lt;カード、授業中&gt;</p>		
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>今と昔の街の絵を比べて、"there was/were --" を用いてその違いを話すことができる。</li> <li>文章構成の例に従って、自分の街を紹介する英文を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今と昔の街の絵を比べて、違いについて話す。</li> <li>自分の街の紹介文を書く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>今と昔の街の絵を比べ、"there was/were --" を使って話すことができる。(話すこと)&lt;観察、授業中&gt;</li> <li>自分の街について、文章構成の例に従って書くことができる。(書くこと)&lt;ワークシート、授業中&gt;&lt;テスト、単元・定期&gt;</li> </ul>		
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容について問題に答えることができる。</li> </ul>	<p>単元テスト</p>				